

JASE

現代性教育 研究ジャーナル

MONTHLY JOURNAL of SEX EDUCATION TODAY

2018 年

No. 88

2018年7月15日(毎月15日)発行

日本性教育協会

THE JAPANESE
ASSOCIATION
FOR SEX EDUCATION

〒112-0002 東京都文京区小石川2-3-23 春日尚学ビル Tel.03-6801-9307 Mail info_jase@faje.or.jp URL http://www.jase.faje.or.jp 発行人 石川哲也 編集人 中山博邦
© JASE. 2018 All Rights Reserved. 本ホームページに掲載している文章、写真等すべてのコンテンツの無断複写・転載を禁じます。

contents

「SEE(Sexuality Education Empowerment)」

2018公開講座・報告 1

思いこみのめがね④ 9

性教育の現場を訪ねて⑩ 10

多様な性のゆくえ⑮ 12

今月のブックガイド 13

JASEインフォメーション 14

● 「SEE (Sexuality Education Empowerment)」 2018 公開講座・報告

トランスジェンダーの歴史

2018 年 4 月 19 日(木曜日) 午後 6 時 30 分より、大阪・梅田ガクトホールで上記のテーマで「SEE (Sexuality Education Empowerment) 2018 公開講座」が開催された。講師は、カナダ・ヴィクトリア大学のアーロン・デヴォー教授(社会学)。講演後、土肥いつき氏の司会で参加者との質疑応答も活発に行われた。ここでは、講演内容を中心に報告する。

主催：SEE (Sexuality Education Empowerment)

司会(東優子大阪府立大学教授・SEE 共同代表)今日は、カナダ・ヴィクトリア大学からアーロン・デヴォー教授に来ていただいています。社会学の専門家で、トランスジェンダーに関する研究を 30 年以上続けておられます。本日お話しいただきますのは、教授が主宰しておられる Chair in Transgender Studies の活動内容に関するものなのですが、この Chair in という言い回しが独特なので確認したところ、「トランスジェンダー・スタディーズの主宰者」と肩書であり、プロジェクト(事業)名でもあり、皆が集う「場」を意味する言葉でもある、とのことでした。

では、よろしくお願い致します。

はじめに

「トランスジェンダー・スタディーズ」(Chair in

Transgender Studies) の活動は多岐にわたり、客員研究者・ゲストスピーカーの招聘、奨学金・助成金の支給、院生によるコロキウム、それから映画上映会など、アート&カルチャーに関するイベント、映画上映会、交流会などを企画・主催しています。

活動の 2 本柱ともいえるのが、① Moving Trans History Forward (トランスの歴史を前進させるための会議) と題した隔年会議の開催と、② トランスジェンダー・アーカイブです。

隔年会議「トランスの歴史を前進させるための会議」について

2014 年、出席者 85 名で始まったのがこの隔年会議です。初回からヴィクトリア大学の総長が歓迎の挨拶に立ち、第 2 回(2016 年)と第 3 回(2018 年)でも大学

の重役が顔を揃えたことから、この会議が研究会レベルのものではないことがわかりいただけるかと思います。

とくに今回の来日直前に開催された第3回(2018年)では、自治体の首長、政治家など、さまざまなVIPも駆けつけ、祝辞を述べてくれました。その中には、ビデオメッセージではありましたがカナダの首相特別顧問も含まれます。

参加者数は、当初の85名を大きく上回る600名超となりました。事前登録者数だけで330名です。11の異なる国から参加があり、登壇者の数だけで100を超えました。

基調講演をしてくださった著名人を何人かご紹介します。



アーロン・デヴォー教授

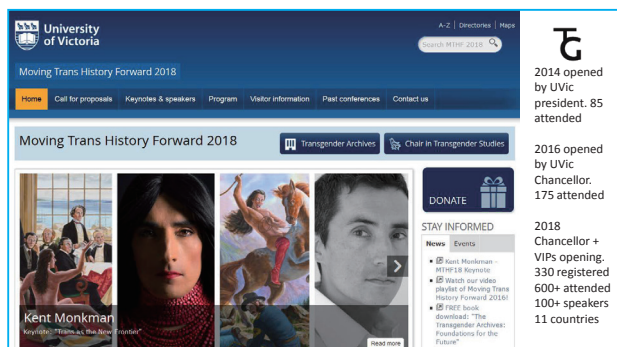


図1

ケント・モンクマン(図1の左端)はカナダ先住民で、政治的問題について雄弁に語ることで有名なアーティストです。彼は自身を「トゥースピリット(Two-Spirit)」であると自己紹介したのですが、これはカナダ先住民の間でトランスジェンダーやゲイを意味する言葉です。

「Tは無音ではない(The “T” is not Silent)」という演題で基調講演を行ったアンドレア・ジェンキンス(図2)は、2017年の全米地方選で黒人のトランスジェンダーとして史上初の当選を果たした政治家です(注:同選挙では、8名のトランスジェンダー候補が当選し、大きな話題になった。ミネソタ州ミネアポリス市議選では、アンドレア・ジェンキンスとトランスジェンダーの黒人男性が共に当選した結果、同市の市議員13人のうち、2人をトランスジェンダーが占



図2

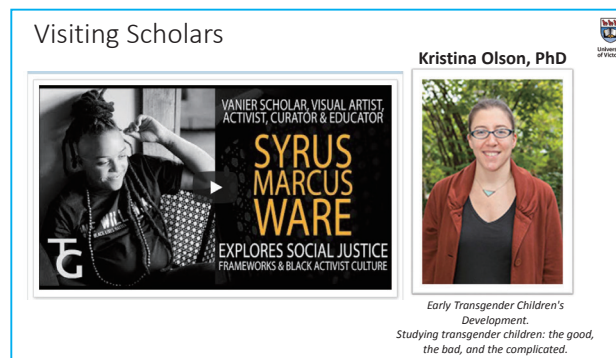


図3

めることになった)。

「世代から世代へ(From Generation to Generation)」をテーマとする今回の会議では、多くの若い世代が登壇し、研究発表や講演をしてくれました。とくに「トランスジェンダー・スタディーズ」の客員研究員でもあるクリスティーナ・オールセン(図3右)が行っている「トランスジェンダーの子どもたちの早期における発達」に関する研究は、今後のトランスの子どもたちに対する社会のまなざしを大きく変える可能性を秘めた、非常に重要なものです。

さきほどもご紹介しましたように、私たちは客員研究員の招聘事業の他にも、奨学金・助成金の給付などを通じた若者支援をしており、院生コロキウム(下表参照)の実現にも貢献しています。院生たちからは「この奨学金制度が存在することがすでに小さな奇跡だ」などの言葉が寄せられています。

院生コロキウムで発表された学生たちの研究テーマ(例)

- セクシュアライズされた親密なパートナーからの暴力経験をLGBTQやジェンダー・フルイドの若者がどのように捉えているか
- 歴史の修正: 異性装(CD)、ノン・バイナリーなジェンダー・アイデンティティ、ファンタジア・フェア
- トランス男性の下半身手術後のセクシュアル・ヘ

ルス（性の健康）

- ・トランスの子どもたちと市民権に係るケア言説
- ・トランス・フォーミング（性別移行）中の女性のためのシェルター：トランス女性のための安全で利用可能なトランジション・ハウスについて
- ・ネット上で若者はどのようにジェンダーを語っているか
- ・トランスの大先輩（高齢者）たちの生涯を通じたサバイバル：その成功に寄与した要因とは何か

こちらの写真（図4）は、ケイト・ボーンスタインです。作家として、パフォーマーとして20～35年という長きにわたって幅広く活動されている有名人で、この日は「男性、女性、それ以外の私達（On Men, Women, and the Rest of Us）」というパフォーマンスをしてくださいました。



図4

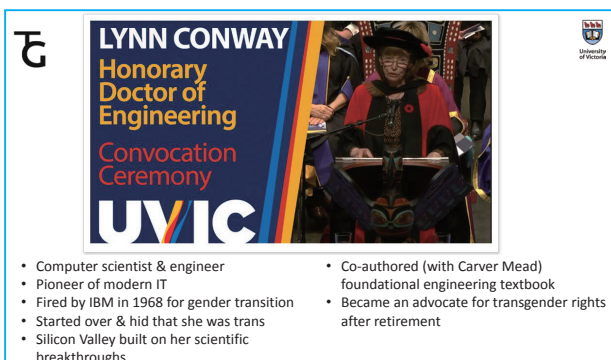


図5

トランスジェンダーに関する映画も上映しました。上映した映画の脚本と監督を務めたトランス女性がビデオで参加してくれました。

そして、名誉博士号の授与式もありました。受賞したのは、リン・コンウェイ（図5）です。

リン・コンウェイは、もともと男性の情報工学のエンジニアであり、計算機科学者で、1960年代からITの世界で重要な業績を残してきた著名人でした（注：カーバー・ミードとの共同でVLSI設計の自動化に関する

共同研究を行い、著書『超LSIシステム入門』なども出版している。シリコンバレーの発展は、画期的とされる彼らの発明によるところが大きいとも言われる）。

1960年代から男性としてIBMのIT技術者として重要な業績を残しつつも、1968年に性別移行（トランジション）をしたことが理由で、IBMから解雇され、再就職後は過去をひた隠しに隠して女性として働いてきました。

定年退職後に初めてトランス女性であることをカムアウトし、現在は、トランスジェンダーの権利擁護を積極的に行っておられる方です。そんな彼女の功績をたたえる名誉博士号が授与されました。

「トランスジェンダー・スタディーズ」は、いろいろな楽しいソーシャル・イベントも主催しています。これは私の一番のお気に入りで、「ナチョス&ドリンク」でおしゃべりを愉しむ会（図6）ですね。こうしたイベントは月に1回程度の頻度で開催され、さまざまな人たちが大学を訪れ、楽しく交流する場を提供しています。

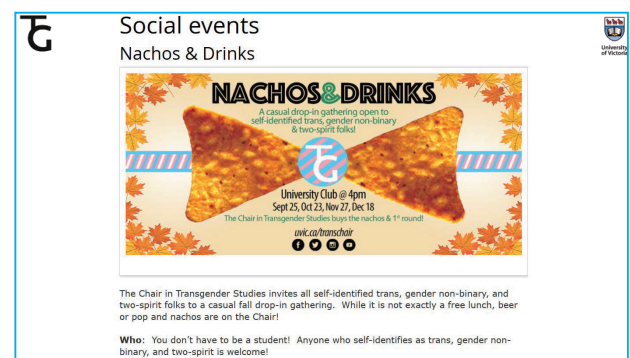


図6

トランスジェンダーに関してこの規模でこのような活動をしているものは、世界中で私達の「トランスジェンダー・スタディーズ」(Chair in Transgender Studies) だけです。ヴィクトリア大学は場の提供というかたちで支援してくれていますが、2016年1月にスタートしたこの活動を支えているのは、もっぱら個人の寄付行為です。

トランスジェンダー・アーカイブ

「トランスジェンダー・スタディーズ」(Chair in Transgender Studies) の重要な柱のもうひとつが、トランスジェンダー・アーカイブです。私は、かねてよりトランスジェンダー・アーカイブの研究代表を務



講演の様子

め、文献・資料収集に携わってきたのですが、大学のプロジェクトとして始まって以降も学術顧問という立場で関わり続けています。

トランスジェンダー・アーカイブの正式な立ち上げは2011年で、ヴィクトリア大学図書館内にそのスペースがあります。

一般に、歴史的に重要な記録を保存・活用し、未来に伝達することを「アーカイブ」と言いますが、私たちのアーカイブにはトランスジェンダー・アクティビズムに関する貴重な資料・文献の原本、調査研究の原本が多く収集保管されているので、歴史研究家などの利用もあります。

ここに一冊だけしかないのですが、これがトランスジェンダー・アーカイブのパンフレットです。ウェブサイトで全文ダウンロード (https://www.uvic.ca/library/about/ul/publications/documents/Devor_Foundations_2016_2ndEd.pdf) できるようになっていますのでアクセスしてください。ウェブサイトの別ページでは、資料・文献の検索もできます。

トランスジェンダー・アーカイブには、125年分の研究記録が保管されています。5大陸20カ国、13言語を網羅（オーストラリア、ベルギー、カナダ、中国、デンマーク、イギリス、フィンランド、フランス、ドイツ、日本、オランダ、ニュージーランド、北アイルランド、ノルウェー、ロシア、スコットランド、南アフリカ、スウェーデン、タイ、米国）しています。

18カ国の書籍、ニュースレター&雑誌、カストリ雑誌／パルプ・フィクション、パンフレット、各種団体の記録、個人的な書物（論文含む）、新聞記事の切り抜き、裁判記録、音声記録、映画、写真、エロチカ、芸術作品の原作、エフェメラ（はがき、チラシなど）

など、その種類もさまざまです。

アーカイブを専門とする人は、所蔵物を全部一直線に並べたらどれくらいの距離になるかという例え方をするそうなので、私たちもやってみましたら、直線162mになりました。

とくに58年にわたるトランスアクティビズムの記録は必見です。世界でこれだけの量を集めているものは世界でただ一つ、ここだけです。日本からのものもあります。これは、1950年代、1980年代に日本で出版されたものです（図7・図8）。

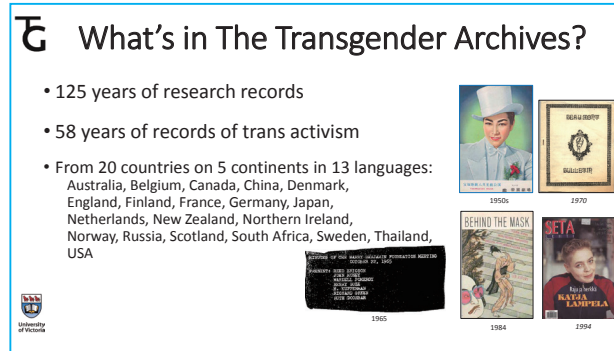


図7

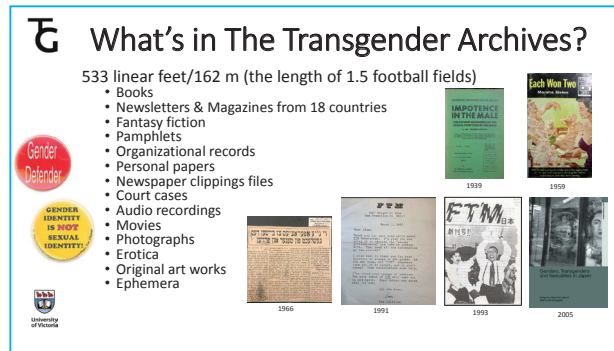


図8

アーカイブを支えているのは、寄付行為です。小さい寄附から大きい寄附まで、さまざまなのですが、一度にダンボール100箱、120箱、170箱という単位で寄付をいただいた代表的なコレクション（リキ・スウィン研究所、リード・エリクソン&エリクソン教育財団、北アイルランド・アルスター大学トランスジェンダー・アーカイブ、アイヤナ・マラクル）を次にご紹介します。

◆リキ・スウィン研究所のコレクション

リキ・スウィン研究所から届いたダンボールには、膨大な資料・文献・書籍が入っていたわけですが、とくに定期刊行物については、世界中のニュースレターや定期刊行物など、実に482種類をリキは集めてお

Rikki Swin Collections

- Extensive newsletters and other periodicals
- Large collection of books
- Fantasia Fair documents 1974-2001
- Ari Kane Collection
- International Foundation for Gender Education (IFGE) organizational records
- Virginia Prince Collection
- Photos, audio & video tapes



Rikki Swin & Kirdo

図 9

Rikki Swin Collections

- 482 different newsletters and periodicals
 - Educational TV Channel Newsletter, San Francisco, USA
 - Hose & Heels, Los Angeles, USA
 - Hawaii Transgender Outreach (HTGO) Newsletter
 - Gendys Journal, London, UK
 - Belfast Butterfly Club, Northern Ireland
 - The Seahorse Society, New South Wales, Australia
 - FTM, Tokyo, Japan
 - Kuin (Queen), Japan
 - And many more....
- Hundreds of books
 - Original photos & negatives for Harry Benjamin's *Transsexual Phenomenon* (1966)





図 10

りました (図 9)。

雑誌は、英国のもの、米国のもの、ハワイ、オーストラリア、そして日本からの『クィーン』という雑誌もコレクションの中に入っております (図 10)。その上に写っているのは、トランスセクシュアルに関する世界初の教科書ともいえる、ハリー・ベンジャミン著『Transsexual Phenomenon』(1966) です。初版本が所蔵されているばかりか、出版に使用された写真のオリジナルやネガまでもが保管されています。

リキ・スウィンのコレクションには、「ファンタジアフェア」に関する資料 (1974～2001 年) もありました。これは、1 週間にわたってマサチューセッツ州のプロヴィンスタウンで開かれるトランスジェンダーの大きなお祭りのことです。1974 年に始まったこのイベントは、トランスジェンダーにかかわるものとしては西洋で最も古く、最も長く続いているイベントです。2001 年以降の記録についても、今後追加していく目処がたっています。

その「ファンタジアフェア」を始めたひとりであるアリアドネ・ケイン (図 11) に関する資料もあります。1936 年生まれの 82 歳ですが、つい 2 週間前に終わった会議 (Moving Trans History Forward) にも来てくださいました。「ファンタジアフェア」を始めただけでなく、そのほかにもいろいろな団体を立ち上

Ariadne Kane (1936 -)

- Extensive public speaking and educational work on behalf of crossdressers and transsexuals
- Founder Human Outreach Institute, 1975
- One of the founders of Fantasia Fair, 1974
 - Continued as a leader until 1998 (24 yrs)
- Founder Theseus Counselling Services
- Founder *Journal of Gender Studies*



図 11

Virginia Prince (1913-2009)

- A founder of modern transgender activism
- Accidentally became public face of crossdressing in the US
 - 1961. convicted of sending obscene material through the mail. On probation, Prince was liable to be imprisoned if caught cross-dressed. Given permission for public cross-dressing for educational purposes.
- Coined the term "transgenderist"




図 12

げ、教育活動に従事してきた方なので、そうした活動に関連した資料・文献がいろいろ残っています。

リキ・スウィン・コレクションには、モダン・トランスジェンダー・アクティビズムのバイオニアであるヴァージニア・プリンス (図 12) に関するものもたくさん入っています。彼女はアクシデントでアクティビストになったようなものです。というのも、彼女は 1960 年代に『Transvestia』(図 13) という雑誌を創刊し、異性装者 (クロス・ドレッサー) の業界の有名人だったわけですが、猥褻物を郵送した罪で執行猶予付きの有罪になったんですね。当時の米国政府は、たとえ私信であっても、性的な事柄を書いて郵便でやりとりすることを禁止していました。執行猶予中の 5 年間は異性装することが禁じられ、した場合は収監されることになっていたのですが、弁護士の交渉により、

Virginia Prince (1913-2009)

- 1960 started *Transvestia*.
 - 111 issues 1960-1986
- 1961 started crossdressers' Heels & Hose Club
- Awards, trophies, photos, correspondence, articles, news clippings
- Chevalier Publications
 - *The Transvestite and His Wife* (1967)
 - *How To Be a Woman Though Male* (1971)
 - *Understanding Crossdressing* (1987)
 - And others






図 13

教育的目的の講演といった活動の時だけは異性装する許可が与えられたのでした。

雑誌『Transvestia』は1986年まで続き、全部で111号が刊行されています。当時はとても貴重な雑誌だったということが言えます。途中、サイズがいろいろ変わったりしているのですが、1960年に出版された創刊号は、とても小さなサイズでつくられていました。当時の米国で異性装することは、罪深く、恥さらしなことであり、何より犯罪化されていたのです。そこで、仲間がこの雑誌をポケットに忍ばせ、隠し持ち歩けるようにという配慮から、非常に小さなサイズでつくられたのでした。

彼女は、いろいろな新語を造語したことでも知られています。現在、「トランスジェンダー」という言葉が使われていますが、多くの人々が、この「トランスジェンダー」という言葉はヴァージニア・プリンスが提唱した「トランスジェンダリスト」が発展したものだと考えています。「生みの親」である彼女自身は、自分がつくった言葉が「トランスジェンダー」にすり替わっていったことについては、好ましく思っていなかった、喜んでいなかったという話もありますが……。その当時、英語圏には「トランスセクシュアル（性転換者）」と「トランスベスタイト（服装倒錯者）」という2つの専門用語しか存在していませんでした。ヴァージニア・プリンスは、（ときどき、パートタイムで異性装を愉しむ人たちとは違って）フルタイムで女性として生活していたわけですが、性器手術をすることには関心を持っておりませんでした。その彼女にとっては、この専門用語のどちらも、自分を表現するには不適切だと感じられたのです。自分は（手術によって性器や身体を変えたい）トランスセクシュアルでもなければ、パートタイムで異性装をするトランスベスタイトでもないということで、自ら「トランスジェンダリスト」という言葉を造語したのです。

◆リード・エリクソン・コレクション

リード・エリクソンは、1964年から1984年まで、エリクソン教育財団を運営していました。エリクソン教育財団の活動領域は大きくわけて3つあって、1つは同性愛、もう1つがトランスセクシュアリズム、もう1つがニューエイジ（イルカとのコミュニケーションなど）でした（図14）。

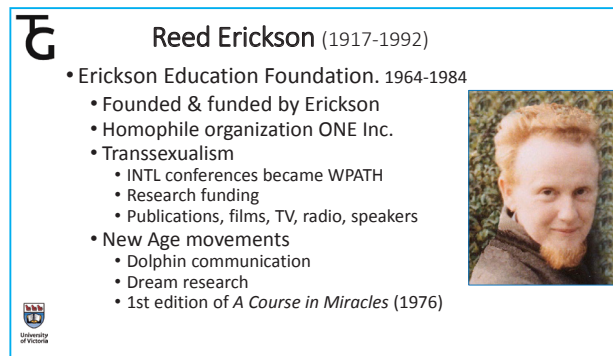


図 14

トランスセクシュアリズムについては、国際学会のスポンサーもしていました。現在 WPATH（World Professional Association for Transgender Health）という名称になった国際学会がありますが、これが HBGDA（Harry Benjamin International Gender Dysphoria Association）だった当時の第1回から第3回までの会議は、このエリクソンが私財を投げ打って開催をし、運営されていました。

助成金制度もあり、トランスジェンダーに関する研究領域には、同財団から援助を受けた研究者も多くいます。その他にも、出版、映像制作、テレビ、ラジオ、講演会など、幅広い活動を展開していました。雑誌や新聞記事の切り抜きの収集もしており、そのコレクションは1960年代から1980年代までが網羅されています。

彼が発行していたニュースレターには、世界中のニュース、調査研究の成果などが紹介されているのですが、トランスジェンダーなどに関する情報を入手するのが難しかった時代には大変貴重な情報源だったことでしょう。

1972年のニュースレター（図15）には、1971年に開催された第2回トランスジェンダー会議で発表したという日本人のドクター穴田（穴田秀男）の記事も載っています（注：穴田英男は医事法学者で、1976

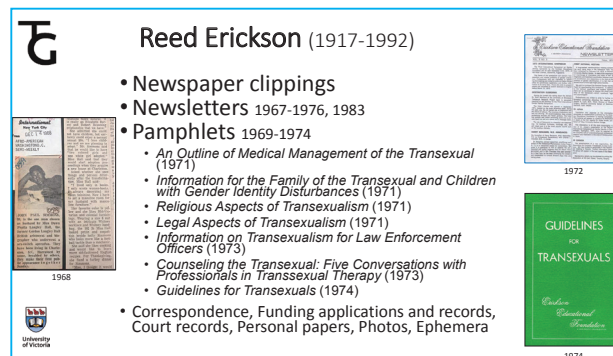


図 15

年にメディカルトリビューン社から『性を変えられるか：性転換の医学的解明』を出版している)。

1971年からのパンフレット類もたくさん収集されています。法律や医療を解説したパンフレット類というのは、当時の様子を知ることのできる貴重な情報源です。非常に資料価値が高いものなので、現在も、個人所有の、あるいは団体が保管してきたものの寄贈を募っているところです。リード・エリクソンのニューズレターには、これらのパンフレットのの一部が日本語にも翻訳されていると書かれてあります。

◆北アイルランド・アルスター大学トランスジェンダー・アーカイブ

リチャード・エキンスのコレクションとも言うべきものとして、北アイルランドのアルスター大学トランスジェンダー・アーカイブ(図16)があります。

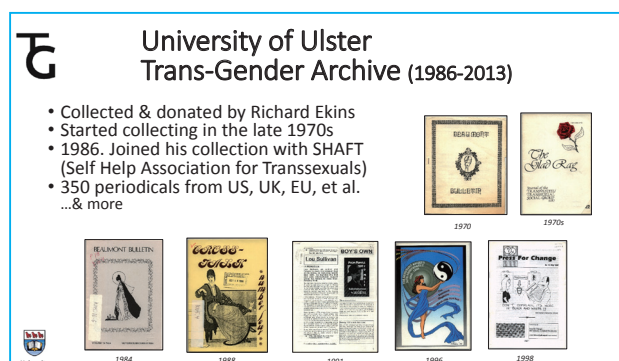


図 16

SHAFT(トランスセクシュアルのためのセルフ・ヘルプ協会)が1970年代に始めた資料・文献収集を1986年にリチャード・エキンスが引き継いだものです。米国・英国・欧州をはじめとする、いろいろなところで発行されてきた定期刊行物350種類ぐらいが所蔵されておりまして、いくつかの例をここに出しておきました。一番古い書籍は120年以上前のもので、イギリスやヨーロッパの30年以上のトランスの歴史をカバーする資料・文献がいろいろと所蔵されています。1893年に出版されたフォン・クラフト＝エビングの『Psychopathia Sexualis』の原本などもあって、歴史的な価値が非常に高いです。この時代は非常に重要な時期であると言えます。というのも、1800年代のそれまでは、同性愛と、現在私たちが言うところのトランスジェンダーには区別がなく、同一視されていました。この頃から、専門家の言説が変り、同性愛とトランスジェンダーは違うものとして扱われるようになって

ていったのでした。

1920年代には、女装を理由に逮捕された人たちの記事がたくさん出るようになり、個人がそうした新聞の切り抜きを大切に保管していたものも所蔵されています。なぜこうした切り抜きが保存されてきたかといえば、当時のトランスジェンダーの人々は、「こんな存在は、世界で自分ひとりだけに違いない」と思い悩んでいたわけです。そんな時に、新聞で誰かが逮捕されたという、喜ばしくない記事であっても、それを見て彼らは喜んだわけです。「あ、私だけじゃなかった」と。だからこそ、逮捕の記事を切り抜いて大事に保管していたわけですね。それが時を超え、100年後の現在もこうしたコレクションとして大切に保管されているのです。語り継がれていくということは、私たちにとってはもちろんのこと、当時の彼らにとっても重要な意味をもつだろうと思います。彼らが確かに存在したという証なのですから。

あとは、私信であったり、パルプ・フィクション(カストリ雑誌)、個人の写真、はがき、その他さまざまなメモなどが所蔵されています(図17)。



図 17

下の左端に写っているのは、トゥーラという芸名で知られる有名なモデルです。本名はキャロライン・コシーと言います。

そのとなりがケイト・ボーンスタイン。冒頭の会議でパフォーマンスをした人です。何歳ぐらいの時の写真でしょうか、若いですね。この写真を撮った人も、トランスジェンダーの写真家で、最近亡くなられたのですけれども、ホリー・ボズウェルという有名なトランスジェンダーのリーダーです。

上の方には、ハリー・ベンジャミンの直筆のサインがあります。先ほど申しあげましたように、所蔵されている資料には、さまざまな原本があるという一例です。

◆アイヤナ・マラクルコレクション

最後にご紹介したいのが、アイヤナ・マラクル（図18）のコレクションです。ほかのコレクションに比べますと、このアイヤナのコレクションは小さいのですけれども、小さくても、カナダ先住民のトランスジェンダーに関するコレクションとして非常に重要なものです。

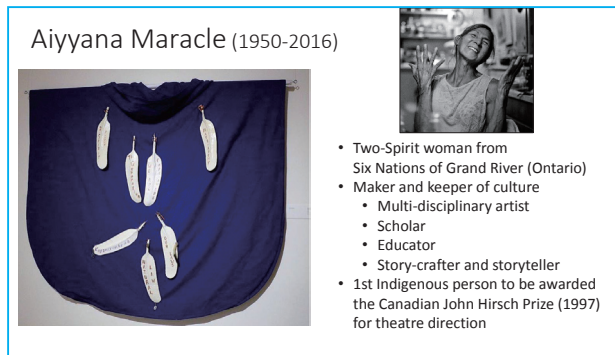


図 18

彼女は、カナダ・オンタリオ州に位置する Six Nations of Grand River（グランド・リバー）出身のトランスピリット（Two-Spirit）の女性です。文化をつくり、保存するアーティストであり、学者・教育者・語り部です。舞台監督としての功績により、カナダ先住民としては初めて、カナダ・ジョン・ヒルシュ賞を受賞（1997）しています。

講演後、休憩をはさんで、コメンテーターの土肥いつきさんの司会で、50 余名の参加者との質疑応答が行われた。

土肥いつきさんのコメント

アーロンさんの話を聞いて、日本のトランスジェンダーをめぐる状況を振り返る時、3つの分断があると思いました。

ひとつ目は、「他のマイノリティ」との分断です。「Moving Trans History Forward」で述べられたカナダ先住民のモンクマンさんや黒人のジェンキンスさんのように、日本においても部落や在日あるいや障害者のトランスジェンダーといったダブルマイノリティは、当然おられます。

しかし、ごく一部の例（『解放教育 特集・LGBT』2011.1 や『部落解放 特集・多様な性を生きる人々』



コメントする土肥いつきさん

2015.7 など）を除いて語られてきませんでした。それは、特例法が論議される時、その対象として日本国籍者に限定してきたことからわかります。

ふたつ目は、世代間の分断です。ヌードモデルのトゥーラさんの話を聞いた時、とっさに特例法前夜に戸籍の訂正を求めてセルフヌード展を開催された藤村梨沙さんのことを思い出しました。でも、あの頃の人々を覚えている人はほとんどいないのではないかと思います。そういう歴史や人を「なかったこと」にしてはならないと思いました。

そして、3つ目は、社会運動と研究の分断です。国内外を問わず、トランスジェンダースタディーズには豊富な蓄積があります。しかし、現在のトランスジェンダーをめぐる運動がこれらの研究の成果からどれほどのことを学んでいるのでしょうか。これは、先に述べた世代間の分断ともつながることだと思います。

あらためて、これらの分断をつなぎあわせていくことの重要性を感じたセミナーでした。

主催：SEE（Sexuality Education Empowerment）

協賛：日本性教育協会（JASE）

後援・共催：関西 GID ネットワーク・大阪府立大学学生センター・大阪府立大学女性学研究センター・ほか

★SEE 性教育アカデミーは、「関西性教育研修セミナー」として各種講演・海外スタディツアーを企画してきた10年の実績を活かし、より系統だった性教育の学びの場を提供していくことを目的として、第1回目の「SEE 性教育アカデミー2018」を7月28・29日に開講することになりました（本紙6月号 No.87 を参照）。SEE がモデルとするのは、ユネスコなど国連諸機関や国際学会が推奨する「包括的なセクシュアリティ教育」（CSE）です。